

CEReSニュースレター

千葉大学環境リモートセンシング研究センターニュースレター
2006年2月号

国際研究交流活動 ～リモートセンシングで環境情報のネットワークを構築～

千葉大学環境リモートセンシング研究センター (CEReS) は、全国共同利用施設として「リモートセンシング技術の確立と環境への応用」に関する研究を行うことを目的に 1995年4月に設置されました。それ以来、CEReSは全国の研究機関と共同研究したうえ、アジア諸国をはじめ、世界中の教育・研究機関と連携して、研究と教育における国際交流を推進してきました。設置当初からモンゴル地域を中心にした研究が多く行われていたことが契機となり、1996年2月にモンゴル国立リモートセンシングセンターと海外の研究機関として初めての協定を結びました。その後、アジアを中心とする5カ国、10機関と協定を結んでいます(表)。

CEReSでは、東アジア地域における NOAA/AVHRR、MODIS、FY-2、GMS-5、GOES、MTSAT など、様々な衛星データのアーカイブを行っています。こうした衛星データや関連する環境データは、全国共同研究機関としての CEReS の活動の中で、アジア地域の環境、都市、人間活動などの変化を把握するために幅広く活用されてきました。今後も、こうしたデータが世界規模での環境情報のネットワークの構築に貢献していきたいと思えます。(J.T. スリスマンティヨ)



ハサヌディン大学にて招待講義



カザフスタンにて植生調査



オアシスの水路を修理するウイグル人の農民
タクラマカン沙漠のホータンオアシスにて

共同研究・教育の風景

表1 部局間協定機関一覧 (2006.01.18 現在) 10 機関

国名	対応部局名	協定年月日
中国	中国科学院安徽光学精密機械研究所	1997.04.12
	中国科学院大気物理研究所	1998.03.19
	中国海洋大学海洋遥感研究所	2003.02.15
インドネシア	技術評価応用庁天然資源インベントリ技術研究所	2000.07.25
	ハサヌディン大学環境研究センター	2005.10.05
モンゴル	モンゴル国立リモートセンシングセンター	1996.02.14
	モンゴル科学技術大学物質科学部	2002.11.04
	モンゴル国立大学地球物理研究センター	2004.11.08
チリ	コンセプション大学自然科学・海洋学部	2002.02.27
カザフスタン	カザフスタン科学アカデミー植物学研究所	1996.08.22

陸域観測技術衛星「だいち」打ち上げ成功



「だいち」(ALOS)は平成18年1月24日10時33分に種子島宇宙センターよりH-IIAロケット8号機により打ち上げられ、順調な飛行を続けています。

ALOSはPRISM、AVNIR-2、PALSARの3つの高性能センサーを搭載しています。PRISMは2.5mの分解能で地上を観測でき、異なる方向から地上を見ることができるとして標高の抽出が可能です。AVNIR-2は青、緑、赤、近赤外の波長を使うことによって多目的の画像作成が可能です。PALSARは全天候型のレーダー画像を撮影します。これらのセンサーを活用することによって地図の作成をはじめとして、災害時の情報提供、様々な環境の変化のモニタリングなどを行うことができます。CEReSではJAXA(宇宙航空研究開発機構)と研究協力協定を締結しており、ALOSはじめJAXAの衛星データを様々な環境解析に応用しています。(近藤)

CEReSの国際交流



平成18年1月16日～3月16日の間に、米国航空宇宙局ゴダード宇宙航空センター気象・雪氷・水文科学部上級研究員(海氷研究部長)Dr. Josefino Cacas Comisoが当センターに滞在し、「北極圏の海氷の急速な減少が北極海海洋循環・海洋生態系・気象に及ぼす影響の研究」の研究に従事しています(受入者:西尾文彦教授)。

(写真:Dr. Comiso)



平成18年1月25日に、インドネシア国営石油天然ガス技術研究所(LEMIGAS)のDr.Suliantaraが当センターにて、「Remote Sensing and Geographic Information System Technology in Oil and Gas」についての研究成果を発表しました(受入者:J.T.スリスマンティヨ)

(写真:Dr. Suliantaraと竹内センター長)

(次号の予定)2006年2月24日に開催する第5回中国新疆ウイグルの環境に関するシンポジウムについてお伝えする予定です。